



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No. 3

2018.7.18(No.2967)

自らのロータリーストーリー
を作りましょう

第2560地区ガバナー／川瀬康裕
会長／松永一義
会長エレクト／若槻八十彦(クラブ奉仕A)
会長ノミニ／野崎喜一郎(クラブ奉仕B)
幹事 西山徳芳
S A A／渡辺良一
会計／吉井直樹
直前会長／小出子恵出

例会日／毎週水曜日 12:30～

例会場／三條市旭町2-5-10
三條信用金庫本店内
TEL 34-3311

事務局／三條市元町2-16
越前屋ホテル 3F
TEL 47-0505 FAX 46-8873

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(～はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

- 本日の出席会員数:60名中36名
- 先々週出席率:91.23%

【ゲスト】

・ソプラノ歌手 今井あい様

【先週のメイクアップ】

[7.11] 新潟南RCへ

・関川 博さん、吉井直樹さん

[7.12] 長岡西RCへ

・関川 博さん、中村和彦さん、
・吉井直樹さん

[7.12] 加茂RCへ

・加藤紋次郎さん

[7.13] 三條ローターアクトへ

・若槻八十彦さん、石黒良行さん

[7.14] 第4分区分会・幹事会(巻)へ

・松永一義さん、西山徳芳さん



インスピレーションになろう

2018～2019年度国際ロータリーのテーマ



会長挨拶

松永一義 会長



こんにちは、と言うより「お暑うございます」の方がピッタリの日です。

本日卓話のソプラノ歌手 今井あい様、後ほど美声を聞かせて頂けると聞いています。宜しくお願いします。

今日は、色の話をさせていただきます。色と言っても色々あります。

色彩の色、人生色々の色、色艶の色。呉服屋ですので、今日は色彩の色の話です。

太陽の色、黄色と言う人もいますが、子供の絵はたいがい赤ですね。その赤の色、赤白の水引、運動会のハチマキ、陶器では辰砂、赤系だけでも数十色数えられます。

顔料で自然の中ではサンゴの赤を絵具にしたり、赤土を焼いて赤を表していました。食べ物では秋の柿の赤、今はスイカの赤、トマトの赤。

昔の赤、古代は火の赤、ファイアーの赤でした。

染物では、紅花の赤が一番有名です。黄色い花ですが、水で洗い流すと赤の色が残ります。紅餅と言う染料が出来ます。当時、金と同じ重さで取引されたほど貴重でした。昔話の金太郎の腹掛けが赤でした。

この紅花で染めたものと思います。虫よけ、保温効果がありました。

信号の赤は気を付けて、血の赤はサラサラに、60歳の還暦は赤いチャンチャンコ、着の下着は赤いケダシ(腰まき)時代劇で良く見ました。風が吹いて裾がめくると赤が見える、それだけでコーフンしたんだと思います。闘牛士のハタ?も赤。黒では思えば牛もコーフンしないのでしょうか。

神社の鳥居は「魔よけ」の赤、口紅の赤は、口から悪いものが入らないようにした紅だそうです。

生まれて、赤ちゃんから始まり、赤い玉が飛び出すと男の人生が終わり。

めでたい赤、コーフンする赤、危険な赤、色について色々と考えてみたいと思います。今回は赤。次回は白について話したいと思います。

幹事報告



柳取崇之 副幹事

◎地区事務所より

「西日本豪雨災害支援について」

◎地区事務所より

「ロータリー防減災セミナーのご案内」

日 時 7月28日(土) 受付 13:00~
セミナー 13:30~17:00

会 場 長岡商工会議所 大ホール

◎三条ロータリーアクトクラブより

「8月第一例会のご案内」

日 時 8月9日(木) 19:30~21:00
会 場 リサーチコア 4階・異業種交流室

◎地区ロータリーアクト委員会より

「アクトの日 日本登録のご案内」

日 時 9月9日(日) 9:00~13:00
会 場 サンライフ長岡 3階・大会議室

◎次週 25日(水)は、夜例会「納涼例会」です。

お間違えのないよう、よろしくごお願い致します。

ニコニコBOX

松永一義会長

今井あい様、お話し楽しみにしております。
暑中御見舞申し上げます。
水分補給をお忘れなく。

川瀬康裕さん

しばらくの間休養させていただきます。クラブのみな様にはご迷惑おかけします。(奥様代理)

関川 博さん

公式訪問スタートしました。みなさん温かく迎えていただいています。川瀬ガバナーの代りは出来ませんがしっかりとやりとげます。

中村信一さん

今井様、卓話ありがとうございます。美しい歌声をお聞かせ下さい。

樺山 仁さん

連日の気温の高さにビックリしております。本日の卓話の今井様に期待しております。

野水靖之さん

毎日本当に暑いですね。
うなぎ弁当頂いて元気出します!!

吉井直樹さん

暑くなりました。皆様遠慮しないでエアコンを使って涼みましょう。
本日今井様、宜しくお願ひします。

梨本次郎さん

三連休は黒部立山へ行ってきました。天候にも恵まれて最高の三日間でした。ありがとうございます。全てに感謝の気持ちです。

近藤雄介さん

今年度初めて出席します。
今井様、ありがとうございます。

荻根澤隆雄さん

殊の外厳しい夏になってます。頑張って乗り切りたいと思います。
今井あい様宜しくお願ひ致します。
中村委員長ありがとうございます。

伊藤寛一さん

今井様、お近くで声を聞く事が出来て光栄です。

渡辺勝利さん

お暑うございます。

野崎喜一郎さん

ウナギを食べて元気を取り戻しましょう。

若槻八十彦さん、柳取崇之さん、高橋 司さん、
石橋育於さん、五十嵐博宣さん、山田富義さん、
小越憲泰さん、歸山 肇さん、杉山幸英さん、
明田川賢一さん、船越良則さん、米山智哉さん

今井あい様、本日は卓話ありがとうございます。
お話し楽しみにしております。

7月18日分 ￥ 113,000
今年度累計 ￥ 200,000

「卓 話」

ソプラノ歌手 今井あい様

「O mio babbino caro」



今歌いました曲は、「私のお父様」という曲で、イタリア人作曲家のプッチーニが作ったオペラ「ジャンニ・スキッキ」の中で歌われます。曲の内容は、ヒロインのラウレッタが、頑固な父ジャンニ・スキッキに、恋人との結婚を

許してほしいと訴える愛らしい歌です。CMなどに使われることも多く、どこかで耳にしたことがあるのではないかと思います。

このオペラのあらすじは、1299年のイタリア・フィレンツェを舞台とします。大富豪の遺産を巡る親戚たちの騒動の中、遺族の一人ヌッチーニの恋人ラウレッタの父であるジャンニ・スキッキが見事に立ち回って、財産をまんまと手に入れてしまう喜劇になっています。

オペラって何でしょうか？

- ・オペラを劇場でご覧になられたことはありますか？
- ・どんなイメージをお持ちでしょうか？

オペラというと、太った歌手が、分からない原語で、歌いながらお芝居する、つまらない物、眠くなってしまふ物。そして、値段も高く、高尚で、とっつきにくい、と思っていらっしゃる方も多くいらっしゃるのではないかと思います。そのイメージのせいで、なかなか、劇場に足を運んで、実際に見て、聞いてみるという所まで、行かない事が多いのではないかと思います。とても残念なことです。

今は、歌手も美男美女も多く、昔のイメージとは大きく異なっていますし、外国語で、よく分からないと思われるかもしれませんが、実際は、お話の内容はとても簡単なので、少し、話の内容を理解して行けば、全部の言葉を理解していなくても、全く問題なく楽しめます。言葉を理解することよりも、そのオペラの持つエネルギーを楽しんでいただきたいです。オーケストラの繊細さから強靱な響き、歌声の豊かさ、会場を包み、私たちを音で包み込む、音の振動と、自分の体が共鳴します。

普段、使っていない部分の脳や体に、振動し刺激を与えてくれます。新たな、感性や、アイデアが生まれてきます。そんな刺激と非日常を味わうことが、オペラの醍醐味だと思います。本物のオペラを観たことのある方は少ないかもしれませんが、先ほ

ど歌った曲の作曲家のプッチーニのオペラ《トゥーランドット》の「誰も寝てはならぬ」などは、フィギュアスケートの荒川静香さんが、トリノオリンピックで、金メダルを取ったときに、使っていましたし、結構、オペラの楽曲の一部は、CMや映画、フィギュアスケートなどで使われており、実は私たちに馴染みのある音楽が多くあります。

それでは、オペラは、いつ頃から始まったのでしょうか。ルネサンス後期の16世紀末、イタリアのフィレンツェで生まれました。

オペラは、ヨーロッパの、文化のみならず、政治、経済とも切り離すことのできない存在で、当時時代を動かしてきた人々の、社交場でした。また、かつては「病院に行くより、オペラに行こう」と言われるなど、オペラはひとびとの心に感動を与え、そして癒してきました。そして現在に至るまで400年もの間、世界中の人々を魅了し続けてきました。

オペラの構成

歌(ソリストと合唱)と楽器の演奏(オーケストラ)で物語りが進行します。そして全体を合わせて指揮者が指揮します。歌劇とも呼ばれますが、演劇と音楽によって構成される舞台芸術です。

歌詞がイタリア語であったり、ドイツ語であったり、フランス語など外国語で歌われることが多いのですが、現代では、大体の舞台で字幕がつきます。舞台の袖や上部に電光掲示できるパネルを置いて、まるで映画のように字幕を読みながらオペラを鑑賞することができますが、私のおすすめは、話のあらすじを読んできて、舞台を堪能することです。そのほうが、集中力が途切れず、入り込めます。

話の内容は、基本的に簡単な物が多いので、普段オペラに馴染みがなくとも、実際に鑑賞してみれば容易にストーリーを理解することができ、楽しむことができますと思います。

オペラの種類

オペラ・セリア：Seria(セリア)はイタリア語で「まじめな」という意味ですが、元来は神話や神聖な物語あるいは悲劇を台本にした古典的なオペラです。

オペラ・ブッフア：オペラ・ブッフアは「喜歌劇」と訳され、喜劇的要素を含んでいます。オペラ・セリアが貴族のために作られたのに対し、オペラ・ブッフアは大衆的な興味を惹くオペラで、オペラ・セリアの幕間の気分直しのような役割から発達しました。

イタリアオペラ：美しく響く声(ベルカント唱法)や、一度聞いたら覚えてしまえるストーリーや人物表現で進行するオペラが特徴です。歌が中心ともいえます。

フランスオペラ：19世紀に、5幕形式でバレエを含む大規模な形式の、グランド・オペラと呼ばれる様式とるなど、壮大なスケールと、流麗な音楽が特徴です。

ドイツオペラ：イタリア全盛時代の作品に対抗し、登場人物の心理描写や複雑な心境を音楽で表そうとするオペラが多いです。芝居が中心とも言えます。

オペラ歌手(ソリスト)

オペラ歌手には高度の歌唱力と演技力が要求されます。オペラ歌手はマイクなしで、客席の隅から隅まで声を届かせなくてはなりません。もちろんただの大きな声ではありません。すばらしい声で美しいメロディーを歌います。これは鍛錬のたまものであり、声帯を振動させて出した声を口や喉、鼻などの体内空間に共鳴させ、歌い続けることができます。言うなればオペラ歌手は体そのものが楽器なのです。

歌手は、アスリートとは、正反対なイメージがあるかもしれませんが、歌うことは、アスリートのようなもので、体のメンテナンスも大事ですし、また体について、しっかりと知っている必要があります。歌っているときは、体がこわばって、固くなっているはいけませんが、かといって、だらだらするわけでもなく、丁度いいバランスで体を使えないと、いい声は出ないのです。

また、歌手の特徴としては、歌うことのみならず、演技力、さらには、語学力も必要です。完璧に話せる必要はありませんが、やはり歌っている原語を、ある程度認識し、理解できているかどうかで、表現力が全く違ってきます。聴いている方は、例え歌っている言語は分からずとも、その表現しようとしていることは、言葉が分かっている人からは、伝わってきます。

たとえば、旅行先の言語が分からなくても、相手の感情を通して、なんとなく、何を言おうとしているのか、分かったりしますよね。話している、歌っている人が、言葉を知っていれば、知らない人にもしっかり伝わります。そうしますと、歌手は、何か国語もできる必要があります。

私も、5カ国語を勉強しました。英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語です。今回、ご一緒する、バスのデニスさんは、8カ国語話せます。そういう才能も、歌手には必要になります。

オペラ歌手の声の種類

声の高い方から、女性が、ソプラノ、メゾソプラノ、アルト。男性が、テノール、バリトン、バス、があります。

ソプラノ：女声高音。動きの早い旋律を楽々と歌います。お姫様や若く美しい女主人公の役など、才気煥発な女性の役柄を演じることが多いです。

メゾソプラノ：ソプラノよりも豊かで深みのある声です。深い愛情表現をする母親や年配の女性か、ソプラノの敵役であったり、企てをもった妖艶(ようえん)な女性や個性的な女性の役柄が多くなります。また青年などの男役を演じることがもあり、これを「ズボン役」といいます。

アルト：女性が歌う最も低い音域です。本当の意味でアルトの声を持っている人はとても珍しいです。オペラの役それ自体も非常に少ない音域です。メゾソプラノと同じような役柄です。

テノール：男性の一番高い声です。軽く、叙情的で劇的な特徴を持つ。若くハンサムな主人公の役が多く、おもに恋人役か主役を演じます。ソプラノの声域のほぼ1オクターブ下にあたります。

バリトン：テノールとバスの中間の音域。重厚な人や人間味溢れる人柄の役が多いです。テノールの恋敵、親友などの役から、二枚目、父親、機知に富んだ切れ者の役など、役の幅はかなり広いです。

バス：男性が歌う最も低い声域です。賢人や悪魔の役も歌います。

上演時間

オペラの上演時間は1、2回の休憩を挟んで2時間から3時間くらいかかります。開演時間の5分前までには、着席してください。もし着席する前に開演が始まってしまうと、後ろの方で立ち見となるか、30分から、長いと1時間くらい劇場内に入れないこともあります。

オペラへのお出かけマナー

- あらすじを読んでおくと、わかりやすい。
- 服装：欧米では、学生など若者は、ジーンズ、スニーカーで聴きに行ったりする。逆に、ドレスアップして、タキシードに、ドレスの人たちもいる。折角の機会なので、少しドレスアップするのが、非日常を味わえて、おすすめ。
- 拍手は、曲が終わったらする。
- 特に感動したとき、「ブラボー」と曲が終わったときに声をかける。
- 曲の始まりから、終わるまで、静粛にきく。
- 携帯は電源を切り、録音録画はできない。

私は、新潟市の下町に生まれ育ちました。

小さい頃から音楽が大好きで、家にあった、オルガンを毎日創作で弾いていたようで、それが、ちゃんと曲になっていたのを聴いて、母が、ピアノを習わせてくれました。

家にあった、母は聴いたのか聴いてないのか分からない、母のクラシック音楽のカセットを、すり切れるくらい、朝から晩まで聴いていました。そのくらい、クラシック音楽が小さい頃から好きでした。私には、とても美しく感じられました。流れでる音、リズム、ハーモニーは、私の感情に響き、豊かな感受性を養えたように思えます。クラシック音楽の持つ、繊細さと、力強さに、強く心を打たれていました。ピアノは習ってはいましたが、プロになることなど、全く考えていませんでした。

中学2年生までは、将来何になるかなど、全く考えておらず、裏の海で友達と遊んだり、部活に励んでいました。中学2年生の終わりに、現在の皇太子妃雅子さまが、ご結婚されることが報道されると、雅子様の世界を股にかけて活躍する姿に、とても心を動かされました。

こんなにすごい女性が世の中にいるんだと、衝撃を受け、私も雅子様のように、世界を舞台に活躍したいと思うようになりました。そのときは、雅子様をめざし、外交官になりたいと思って、勉強をはじめました。それまでの、遅れを取り戻すため、猛勉強しました。不思議と、勉強するにつれて、芸術の分野も伸びました。その中学3年生の時に、音楽の先生に、歌の才能があると思うから、声楽を習ってみて欲しいといわれました。そのときは、外交官になりたかったため、断りましたが、時が経ち、高校生になると、人に才能があると言われることを、やってみたいと思うようになりました。しかし、学校の勉強も忙しく、声楽家になろうと思っていたわけでもなかったため、本格的には、はじめませんでした。

しかし、大学受験の頃に見た、ヴェルディのオペラ「椿姫」に衝撃を受けました。私がやりたいのはこれだと思いました。それは、総合芸術でした。世界を舞台に、美しく輝く音楽と、全身からあふれ出る色とりどりの豊かな歌声、きらびやかな衣装に、豪華な舞台美術に装置、イタリア語、フランス語、ドイツ語、英語、スペイン語など、いろいろな原語で歌われるオペラ。夢のような職業だと憧れました。

そこから、大学は、学習院の法学部で、法律を学びましたが、卒業後、まず、マヨルカ島の講習会に参加し、そこで、今回共演のデニスさんに出会いました。その後、パリへ留学し、2年半過ごし、

ニューヨークに4年いて、そのあいだに、音楽で修士号を取得しました。憧れの職業ではありますが、とても大変な職業でもあります。常に、オーディションを受けたり、自分のコンディションにも気を配り、旅行ばかりの生活になりますし、いつも知らない土地で孤独に過ごすこともあったりと、舞台の華やかなイメージと違い、ストレスもとても多い職業です。

また、どんなにいい学校を出ても、コンクールで賞をとっても、それが直接仕事に繋がるとは限らず、優秀な歌手はたくさんいますが、活躍できるのは、本当に一握りのとても厳しい世界です。私も、声を壊したり、なかなか仕事に結びつかなかったりと、苦労してきました。ようやく、新たな軌道に乗ってきて、そんな中で、今回のコンサートは、さらなる飛躍に繋がる、私にとっては、思いがけず、素晴らしい機会になりました。

9月のコンサートの経緯と、みどころ

セドフさんとの出会い：

2003年スペインのマヨルカ島で行われた音楽講習会で、同じく師事したロレーヌ・ヌーバー先生のレッスンを受けたことがきっかけで、セドフさんと知り合いました。彼の輝かしい才能と活躍にあこがれ、いつか一緒のステージに立つことを夢の一つとして、活動を続けてきました。そして、この度、その夢が叶うことになり、セドフさんをはじめ、応援して、支えてくださっている皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。

ジョン・健・ヌッツォさん出演の経緯：

セドフさんに、共演のお話をいただいた後、日本でのコンサートなら、セドフさんのお友達のジョン・健・ヌッツォさんにも、出演してもらえないか、聞いてみようということで、セドフさんが声をかけてくださって、ジョンさんにも出演していただけることとなりました。こうして、また新たな繋がりができ、これがさらにまた新たな繋がりにつながっていくのだなと、この夢のような共演を大変うれしく思っております。

今回のコンサートで願っていること：

世界の一流歌劇場で歌われる、セドフさん、ヌッツォさんに新潟で歌っていただけるこの機会を、クラシック音楽、オペラ好きの方はもとより、クラシック音楽を知らない方、オペラを聴いたことがない方、また、特にこれからの新潟を、日本を担っていく、中学生(今回中学生をコンサートに御招待しています)や、高校生の若い方々に、世界のレベル

の演奏、そして異文化に若いうちに触れてもらうことで、自分の可能性を広げ、世界にも視野を向け、柔軟な考えや、新しい発想ができるような、刺激となることを目指しております。

日本の外へ出て見えてきた、日本人、日本文化、その素晴らしさを心から感じることができるようになりました。そして、そこから、人のやさしさ、つながり、平和を思う気持ち、人権、差別について考える思い、そういうものをさらに強く感じるようになりました。

私は、日本を歌うことで、日本人には、日本の良さを再発見していただき、また世界中にそういうすばらしさを、伝えていく活動を盛んに行っていきたいと思っております。

世界に出てつながったこの絆を、皆様と分かち合うことで、皆様一人一人が、身近なところから始まり、そして世界中の人々へと絆が結ばれていることを、実感していただき、争いのない平和な世の中が訪れるための、一助となるコンサートとなることを心から願っております。



- イタリアオペラ：代表作品：
 - 「セビリアの理髪師」 ロッシーニ作曲
 - 「ノルマ」 ベッリーニ作曲
 - 「愛の妙薬」 ドニゼッティ作曲
 - 「椿姫」、「リゴレット」 ヴェルディ作曲
 - 「ラ・ボエーム」、「蝶々夫人」 プッチーニ作曲
 - 「カヴァレリア・ルスティカーナ」 マスカーニ作曲
- フランスオペラ：代表作品
 - 「ハムレット」 トマ作曲
 - 「ファウスト」 グノー作曲
 - 「サムソンとデリラ」 サンサーンス作曲
 - 「マノン・レスコー」 マスネ作曲
 - 「カルメン」 ビゼー作曲
- ドイツオペラ：代表作品
 - 「魔笛」 モーツァルト作曲
 - 「魔弾の射手」 ウェーバー作曲
 - 「トリスタンとイゾルデ」 ワーグナー作曲
 - 「ばらの騎士」 リヒャルト・シュトラウス作曲



次週例会 8月1日 「会員卓話」 中沢真幸 会員

次々週例会 8月8日 「会員卓話」 関川 博 会員

